



海水浴の爲めに 平驛夏季の要意

波立薬師の例祭から假降車 廿日から八月廿日迄臨運

平驛では夏季を迎へる海水浴客の爲め列車の臨運増結を來る三十日(舊五月十四日)の久の濱町波立薬師例祭から三十一日の本祭にかけて薬師裏に假降車を設け

宴祭の午後十二時四十九分 同二時五十分 同六時三十分(何れも平驛)

十一分(何れも平驛)のガツリ、一を運轉引續いて三十一日、八月二十日に至る四十一日、平驛着午前九時

平局の專變國債 消化四十七萬余圓

平局に於ける第十回の專變國債は三萬二千七百七十五圓の消化豫想に對し今回は各銀行その他に貯蓄債券の賣出を努力された影響から知れず約三萬圓の賣れ行きであつたが之れに代つて同局の貯蓄債券は追加分を合せる八百枚(十五圓券十圓券)全部八千圓を早くも消化した尙ほ縣下に於ける今回の貯蓄債券消化額は十四萬三千圓(一萬四千三十枚)で他局に比し優良な成績を上げ

水路欠潰

仮修理で通水 石城郡鮫川堰の復舊工事は漸く完成して豊稔期の落成式に先立ち通水の成績もよく

鮫川堰の復舊工事は漸く完成して豊稔期の落成式に先立ち通水の成績もよく

四倉市場

第九日目の 相場も下り坂

出廻りも薄く

四倉市場第九日目は昨二十三日の取引は白鹿出廻り二百六

千七百圓の資金で 坑夫の大募集計畫

助川に陣取つた杉島炭礦の 勞務係外名總檢査

石城郡湯本町々を去る二十日夕御宿してある坑夫の募集が不審なもので平署員が本署に連行取調したところ

「躑躅」の花盛り 海拔二千尺の高地

石城郡上野村出身 鈴木榮

數日して〇月〇日また〇〇〇〇

支那單語

衣服のとは衣裳と云ふ
場合イオン、衣服
と云ふ場合イオン、洋
服を洋衣服でヤン、
支那服のことは中
國衣服と唱ひチンク
オイフ、平常服は便
衣でピュニイと云ふ

市勢の概況を嬉見

平市下平出 鈴木 寛

謹啓、先般は秋後皆々様の御活動の状況と市勢の概況とを御通報下さる有難く拜見仕候、尙ほ二層神社の御守護も正に拜受り候に付御安心下され度候、御敬勵御期待に添ふべく増々奉公の念を堅くすべく痛感致居候、先は右御禮まで如斯に御座候、敬具

大町青年團の臨時總會

平市第十八區青年團では團の組織變更に關し今廿四日午後七時からマルトモホールに臨時總會を開き十八區内の役員奉仕をなす

磐女生的の奉仕

磐城高等女學校では豊稔期の去る二十一日から來る二十七日まで授業を午前のみとなし出陣家族方の縫製、洗濯及び子供の守などに手停し鏡後等に至る一ヶ月の傷害を與へて種田等に檢査する

輪王寺宮御旅泊 遺蹟建碑趣意

御遺蹟保存會謹識

市宇高月宿飯野八幡神社々
司宅地、

一、本會は一節の趣旨に基き、北白川宮能久親王、本郡御内旅泊三遺蹟を蹟古に紀載、保存するを以て本旨とす、

公益質屋入札 被害者を毆打

若布泥發見され 全治一週間の傷害

石城郡江名町の下神白魚肥製逃の日雇夫信夫郡岡山村大字岡部生れ前科三犯齊藤三郎(三)は去る二十日居町下神白江筋に於て若布を採取中岡部字長崎作山は若布を探つて置いた若布を搦拂つて逃走すると

人絹職工の盗み

石城郡錦村の人絹工場職工青森縣西津輕郡森田村生れ外崎

文魁文堂

電話313番

事務家諸兄に
ムツリニ、を獎む
國産品に斯んなよよべ
ンがあるのは喜ばし
ことす
錦ひなき書きよし、
ちよし、三拍子揃つた
ペンです、

文魁文堂
電話313番

家の盛典を執行す、
四、役員
(一)是より先き、本旨を達
成する爲め、左の役員を擧
げて本會を組織し、故宮殿
下の東奥御流宮第一の御假
泊地に建碑保存し各年度の
自營に委す
顧問、若平藩主子爵安藤信
昭、若平藩主子爵本多忠見
若湯長谷藩主内藤政忠、
贊助、若神賦子爵若川資長
若泉藩家老本多忠綱、
★.....★

